

2022年度の小鹿キャンパス防災訓練に参加して、見事な活動をしていただき、ありがとうございました。そしてご苦勞様でした。

今日は大学だけでなく、消防署など多くの方たちが地域から参加してくださっています。ありがとうございました。

静岡県は健康で長寿の県と言われていています。私はそれに安全を加えて、安全と健康で長寿の静岡県と言えるようにしたいと、最近の川勝平太知事との対談でも話しました。静岡県立大学ではそのためにグローバル地域センターに今年度から自然災害部門を発足させました。また近い将来には生涯を健康で暮らすことをテーマとする新しい学部を設置する準備を進めています。

2011年の巨大地震、東北地方大洋沖地震は強い地震動を発生しましたが、その地震動が伝わった静岡県でも、南アルプスの地下や富士山の地下などに大きな影響を受けており、小さな地震の発生頻度が目立って高くなったまま現在も収まっていないために私は注視しています。また近い将来には南海トラフの巨大地震の発生が確実と予測されており、そのための備えが進められています。さらに富士山は噴火する時期がすでに過ぎているという研究結果が発表されています。

本日の訓練で想定した地下の自然現象だけでなく、地表では水害や土砂災害がたびたび発生しています。台風による風水害、竜巻の被害もあります。

静岡県には危機管理部があります。大規模地震が起こったとき強い揺れから命を守る必要があるという国に、私たちは暮らしています。日本には、建築基準法があって、公共施設から庫まで、建築に関する決まりがあります。その中に「地震地域係数」という項目があって普通の地域で「1.0」です。東京都では「1.0」、地震が少ないといわれている沖縄で「0.7」、静岡県も国で定めた法律上は「1.0」ですが、県はこの数字を独自に「1.2」に引き上げています。

この小鹿キャンパスは、地震でかなり揺れやすい地盤であり、地盤が液状化する可能性がやや高いと予測されている地域です。その上に近い将来、震度6弱以上の強い揺れが起こる確率が非常に高いと予測されている地域に、このキャンパスがあります。実際にそのような強い揺れが発生したときには、今日の防災訓練を思い出しながら落ちついて自分の命を守る行動をとってください。その時に今日の経験が役立ちます。

静岡県には「地域防災の日」があります。12月7日のこの日は、県内全市町で防災訓練が行われます。朝、地震と津波の発生を伝える緊急速報メールの配信訓練、炊き出しをしたりテントを張ったり、災害時に地域防災活動の担い手として期待される中高生も積極的に

参加しています。学校では年に数回、大地震が来たことを想定して避難訓練を行います。今日の小鹿キャンパスでの訓練だけでなく、家にいたときや街中にいたときの地震発生に備えて、各地域の防災訓練にもぜひ参加してください。また、自宅の中と近くを観察して、防災意識の視点でいろいろと点検しておいていただきたいと思います。

東日本大震災の後、海のそばの高い建物が津波避難ビルとなりました。避難方法が書かれた看板が目立つようになりました。いつ起こるか分からない自然災害に対し、常日頃から静岡県に住む人たちのひとり1人が、正しい知識をもとに災害に備える、そのような県になることを静岡県は目指しています。

ところでこの防災訓練の最後には防災食の配布というプログラムが組まれているはずで
す。教育棟のアンケートを提出していただく場所に用意してあると思います。その備蓄用の
防災食を新しいものに交換する機会です。ぜひ味を見てご批判ください。先日の断水の時に
も備蓄したある水を配布してたくさんの方に持ち帰っていただきました。防災食もとても
美味しいものがそろっています。それも含めてこの防災訓練が厳しい中にも楽しい面があ
るといふ恒例の行事になってほしいと私は願っています。

本日の防災訓練が実際に役立つときが来ないことを祈ってはいます。しかしもし発生し
たときには今日の経験が役立つということを願って、防災訓練の私の講評といたします。
ありがとうございました。